



技術仕様

この付録では、Cisco Nexus 2000 シリーズ Fabric Extender の技術仕様について説明します。内容は次のとおりです。

- 電力の仕様 (P.B-1)
- 環境仕様 (P.B-3)
- 物理仕様 (P.B-3)
- 電源の LED インジケータ (P.B-4)
- トランシーバの仕様 (P.B-4)



(注) ケーブルおよびコネクタの仕様については、付録 C「ケーブルおよびポートの仕様」を参照してください。

電力の仕様

ここでは、Cisco Nexus 2000 シリーズ Fabric Extender の電力仕様について説明します。

電源モジュールは、ケーブルで基板に取り付けられたコネクタによって、システムに直接接続されます。各電源モジュールの基板上にコネクタが 1 個ずつあります。AC 入力、電源モジュールの前面パネルに取り付けられた IEC コネクタを経由します。表 B-1 に、Cisco Nexus 2000 シリーズ Fabric Extender の電源の仕様を示します。

表 B-1 Cisco Nexus 2000 シリーズの電力仕様

Cisco Nexus 2000 シリーズ	電源モジュール	
	N2K-PAC-200W	N2K-PAC-400W
プラットフォーム	Cisco Nexus 2148T	Cisco Nexus 2248TP および 2232PP
通常動作時電力	165 W	110 W (Cisco Nexus 2248TP) 270 W (Cisco Nexus 2232PP)
最大出力電力	200 W	400 W
入力電圧	90 ~ 264 VAC	90 ~ 264 VAC
周波数	50 ~ 60 Hz	50 ~ 60 Hz

Cisco Nexus 2000 シリーズ	電源モジュール	
入力電流	1.5 A/2.2 A* (通常/最大) (注) * この入力電流は 110 V の場合です。220 V の場合は 2 で割った値になります。	Cisco Nexus 2248TP : 1.0 A/1.2 A* (通常/最大) Cisco Nexus 2232PP : 2.5 A/4.1 A* (通常/最大) (注) * この入力電流は 110 V の場合です。220 V の場合は 2 で割った値になります。
出力電流	11.5 A/16.7 A (通常/最大)	Cisco Nexus 2248TP : 8 A/10 A (通常/最大) Cisco Nexus 2232PP : 20 A/33 A (通常/最大)
効率	通常の消費電力で 84 %	通常の消費電力で 90/92 % (110/240 Vin) 最大消費電力で 88/91 % (110/240 Vin)
RoHS への準拠	RoHS-5 準拠	RoHS-6 準拠
ホットスワップ	可能	可能
熱放散	670 BTU/時	Cisco Nexus 2248TP : 322/403 BTU/時 (通常/最大) Cisco Nexus 2232PP : 806/1330 BTU/時 (通常/最大)
電源コード定格	3 A@100 Vin/最大 1.5 A@240 Vin	6 A@100 Vin/最大 3 A@240 Vin
立方インチ	51 インチ ³	39 インチ ³
電力密度	3.9 W/インチ ³	10.2 W/インチ ³
動作温度	0 ~ 50 °C	0 ~ 50 °C
冷却	電源モジュール冷却用の内部ファン	電源モジュール冷却用の内部ファン
入力コネクタ	電源モジュール前面の AC コネクタ	電源モジュール前面の AC コネクタ
出力コネクタ	背面の DC 出力コネクタ	背面の DC 出力コネクタ
電源のインジケータ	電源の状態：グリーンは電源が動作可能であることを示し、レッドは障害を示します。 AC インジケータ：濃いグリーンは、AC 電力が供給されていて、電源の仕様の範囲内であることを示します。	電源の状態：グリーンは電源が動作可能であることを示し、オレンジは障害を示します。 AC インジケータ：濃いグリーンは、AC 電力が供給されていて、電源の仕様の範囲内であることを示します。

環境仕様

ここでは、Cisco Nexus 2000 シリーズ Fabric Extender の環境仕様について説明します。

表 B-2 に、Fabric Extender の環境仕様を示します。

表 B-2 Cisco Nexus 2000 シリーズ Fabric Extender の環境仕様

説明	仕様
動作時温度	32 ~ 104 °F (0 ~ 40 °C)
非動作時温度	-4 ~ 158 °F (-20 ~ 70 °C)
相対湿度 (RH)	5 ~ 95% (結露しないこと)
高度	0 ~ 10000 フィート (0 ~ 3000 m)

Cisco Nexus 2232PP および Cisco Nexus 2248TP Fabric Extender は、水平または垂直のラック マウント構成において、0 ~ 40 °C の周囲温度で動作できます。非動作時温度は -25 ~ 70 °C、非動作時高度は 10 ~ 90 % (結露しないこと) です。

物理仕様

ここでは、Cisco Nexus 2000 シリーズ Fabric Extender の物理仕様について説明します。

表 B-3 に、Fabric Extender の外形寸法を示します。

表 B-3 Cisco Nexus 2000 シリーズの外形寸法

Cisco Nexus 2000 シリーズ	外形寸法 (高さ × 幅 × 奥行)	
	インチ	cm
Cisco Nexus 2148T	1.72×17.3×20.0 インチ	4.37×43.94×50.8 cm
Cisco Nexus 2248TP	1.72×17.3×17.7 インチ	4.37×43.94×44.96 cm
Cisco Nexus 2232PP	1.72×17.3×17.7 インチ	4.37×43.94×44.96 cm

電源の LED インジケータ

ここでは、Cisco Nexus 2000 シリーズ Fabric Extender 電源の LED インジケータについて説明します。表 B-4 に、電源モジュール前面にある LED インジケータの、各状態での表示を示します。

表 B-4 電源の LED インジケータ

状態	電源 LED のステータス (グリーン)	障害 LED のステータス
電源モジュールに AC 電力が供給されていない。	消灯	Cisco Nexus 2148T : レッド オフ Cisco Nexus 2248TP および Cisco Nexus 2232PP : オレンジ オフ
電源モジュールの障害 (過電圧、過電流、過熱、ファン障害など)。	消灯	点灯
電源モジュールの動作が続行される電源モジュール警告イベント (高温、高電力、ファン速度低下)。	消灯	1 回点滅
AC 電力が供給されていて、Voltage Standby (VSB) がオンで、電源モジュールがオフになっている。	点滅 Cisco Nexus 2148T : VSB なし Cisco Nexus 2248TP および Cisco Nexus 2232PP : 12 V	消灯
電源モジュールはオンで、正常に動作している。	点灯	消灯

トランシーバの仕様

ここでは、Cisco Nexus 2000 シリーズ Fabric Extender のトランシーバの仕様について説明します。次の内容について説明します。

- [SFP+ トランシーバの基本仕様 \(P.B-4\)](#)
- [SFP+ トランシーバの環境条件および電力要件の仕様 \(P.B-5\)](#)
- [SFP+ トランシーバの環境条件および電力要件の仕様 \(P.B-5\)](#)

SFP+ トランシーバの基本仕様

表 B-5 に、10 ギガビットイーサネット SFP+ トランシーバの基本仕様を示します。

表 B-5 10 ギガビットイーサネット SFP+ トランシーバ モジュールの基本仕様

説明	ショートレンジ	
	コネクタ タイプ	LC
波長	850 nm	
コア サイズ	50 ミクロン	62.5 ミクロン
ケーブル長	300 m	33 m

SFP+ トランシーバの環境条件および電力要件の仕様

表 B-6 に、10 ギガビット イーサネット SFP+ トランシーバの環境条件および電力要件の仕様を示します。

表 B-6 10 ギガビット イーサネット SFP+ トランシーバの環境条件および電力要件の仕様

パラメータ	記号	最小	最大	単位
保管温度	T_S	-40	85	°C
ケース温度	T_C	0	70	°C
モジュール供給電圧	$V_{CC}^{T,R}$	3.1	3.5	V

SFP+ トランシーバの環境条件および電力要件の仕様

表 B-7 に、SFP+ トランシーバの環境および電力の最大定格値を示します。

表 B-7 SFP+ トランシーバの環境条件および電力要件の仕様

パラメータ	記号	最小	最大	単位
保管温度 ¹	T_S	-40	85	°C
ケース温度 ^{1,2}	T_C	0	70	°C
相対湿度 ¹	RH	5	95	%
モジュール供給電圧 ¹	$V_{CC}^{T,R}$	3.1	3.5	V

1. 絶対最大定格とは、一定時間にわたってこの制限値を超えると機器が損傷する可能性があることを示す値です。
2. 機能的な性能および装置の信頼性を表すものではありません。また、絶対最大定格と推奨される動作条件の間での使用が長時間に及ぶと、装置が損傷することがあります。

